



佐野市市民活動センター

心をつなぐ人をつなぐ

ここねっと

第65号

登録団体：118、登録個人：47（2022年12月現在）

子どものボランティアへの参加を デザインしよう

佐野市市民活動センター アドバイザー
佐野市市民活動推進委員会 委員 土崎 雄祐



2022年8月、総務省は「令和3(2021)年社会生活基本調査生活時間及び生活行動に関する結果」の概要を公表しました。それによると、「ボランティア活動」※の行動者率は17.8%で、5年前より8.2ポイントの低下が見られます。また、年齢階級別（10～74歳5歳刻みと75歳以上で区分）行動者率について、前回調査（16年）から割合の低下が最も大きかったのは10～14歳（今回12.1%、14.4ポイント減）です。これを22年11月1日現在の佐野市の人口に当てはめてみると、20年10月～21年10月の1年間にボランティア活動を行った10歳以上の人は19,059人で、このうち10～14歳は578人となります。

市民活動における参加と協働を後押しする立場として、「近頃の子どもはボランティアもしないなんて！」と文句を言いたいわけではありません。これは活動推進者たる私たち大人の問題であり、子どもたちがボランティアに参加しやすい環境や魅力的な活動プログラムを十分に提供できていないことを意味しているのではないのでしょうか。私自身、数年前から栃木県から委嘱された「とちぎ協働アドバイザー」として佐野市内の中学校を訪問してボランティアに関する講話を届けていますが、活動の魅力をきちんと伝えきれていないのかもしれない。

一方で、子どもたちのために大人が何から何までお膳立てしてあげるのも少し違う気がします。ボランティアを説明する際、しばし「自発性」というキーワードが用いられます。市民活動センターや関係機関が協働し、子どもたちがワクワクドキドキしながら自ら参加したくなる「呼び水」のような働きかけをしていきたいものですね。

※この調査では、「報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行っている活動」と定義。



みんなのしゃべり場



9月10日、オープンデーの中で今年度3回目となる「みんなのしゃべり場」を開催しました。「令和元年台風から防災を考える」というテーマのもと、防災に取り組んでいる市民活動団体の皆さんや、町会で活動する防災士の方、社会福祉協議会や市の職員、また令和元年台風の際に被災した経験をお持ちの方まで様々な立場の皆さんとお話する貴重な機会となりました。



すでに取り組みを始めている皆さんから、「支援が必要な人の情報を的確に掴み、平時から繋がりを作るもっと良い仕組みはないか」「地域で世代間の交流が乏しく、顔の見える関係になることが難しい」など、地域防災の抱える課題と、それに対する意見や実践例が出され、あっという間の一時間半となりました。

ここねっとでは、このように様々な立場の人が対等な関係で情報や意見を共有し、そこから新しい活動が生まれることを支援するため、みんなのしゃべり場を継続させていきます。



防災を考える市民講座



11月18日、佐野市社会福祉協議会が主催する「防災を考える市民講座」が田沼中央公民館で開催されました。被災地の地域復興にも深く関わった、にいがた災害ボランティアネットワーク理事長李仁鉄氏の講演に続き、パネルディスカッションが行われました。

自然災害が少ないと思われていた佐野市も、令和元年には大きな水害に見舞われ、自然災害が誰の身にも起こることを実感させられました。それでも安心してこの町で暮らしていくために、市民や支援者、各機関がどのように手を携えていけばいいのか、それぞれが置かれた立場で考えるきっかけとなりました。

ここねっとは、佐野市連携支援ネットワークの一員として、日頃より社会福祉協議会や国際交流協会、佐野市の担当課と情報や意見を交換し、災害時の連携強化に努めています。今後も安心して暮らせるまちづくりのために、関係機関や登録団体・個人の皆様と顔の見える関係を作り、機動力のあるネットワーク作りに尽力していきます。





栃木県立佐野松桜高校インターンシップ



10月18日からの3日間、栃木県立佐野松桜高校の生徒2名がここねっとでインターンシップを行いました。

手話サークル「うさぎ」の皆さんと活動する中で、令和元年台風の際、ろう者がどうやって情報を得て何に苦労したのか話を聞く場面がありました。とても真剣な表情で聞き入っていた二人は「障害者の皆さんしか気づかない生活の中の不便なところを初めて知った」と話していました。

その他、点訳サークルこぼと会、音訳ボランティアやまびこの会の皆さんにも温かく活動に迎え入れていただき、貴重な時間を過ごすことができました。

高校生は頼もしい協働の実践者であり市民活動に共に取り組む仲間です。今後も各高校と継続的に繋がりを持ち、共に地域課題を考えその解決に向けて努めていきます。



朗読サークル凧の会 朗読を楽しむ会



11月13日、朗読サークル凧の会の皆さんが、ここねっとを会場に朗読を楽しむ会を開催しました。毎年この時期になると「朗読を楽しむ会、予約できますか？」と声をかけていただくほど、楽しみにされている方が多いイベントです。

今年は、二人で一つの作品を読み上げるプログラムもあり、本格的な朗読の世界に引き込まれた一時間半でした。

今後も、登録団体や個人の皆さんが活動の成果を発表したり交流したりする場所としてここねっとを積極的に活用してもらえよう、皆さんのニーズを拾い上げ共に活動を盛り上げるような企画・運営を進めていきたいと思ひます。



10月に行われたいちご一会とちぎ国体・いちご一会大会の開会式で、皆様から寄附をいただいたいちごクリーナーを都道府県の選手の皆さんを中心に配布しました。

温かいご協力、ありがとうございました！



登録団体の活動紹介～vol.4～

新規登録団体

さのボラねっと



令和元年台風を機に結成された“さのボラねっと”は、災害ボランティアセンターが閉所した後も、被災者を訪問したり防災イベントを実施したりと精力的に活動を続けています。

10月には、日常とキャンプと防災をつなぐ「デイキャンプ！で防災、やってんべー！」を初めて開催しました。

参加者は、ライフラインが止まり、限られた水や道具しかない状況を想定し、牛乳パックや新聞紙を使って食事を用意する体験をしました。

代表の松永さんは、防災は大切な事だけど、日々の生活の中で楽しく体験を積むことも忘れないでほしいとお話されていました。

フラサークル Pretty Mammy



フラサークル Pretty Mammy は、フラダンスを通して楽しい時間を提供できるよう、犬伏地区公民館を中心に毎週サークル活動を実施しています。

12人のメンバーの皆さんは綺麗なステップを覚えられるようにと、先生から丁寧に指導を受け、基礎から曲に合わせた踊りまで、熱心に練習をしています。

代表の立川さんは子育てが大変な時期にフラダンスに出会い、夢中になって踊っていると辛いことも忘れられたと言います。「メンバーは家族のよう。踊っている時は仕事や家庭での大変な事や、嫌な事を忘れられる楽しい時間になってほしいと思っています。」と穏やかな笑顔で話していました。

佐野市市民活動センター ここねっと

〒327-0003

佐野市大橋町 3211-5

TEL/FAX 0283-20-5166

MAIL: sanosc@sctv.jp

HP

<https://www.kokonet-sano.jp>



開館時間

火～土 9:00～21:00

日・祝日 9:00～18:00

休館日 月曜日 /

12月29日～1月3日

これからの予定

令和5年 1月14日(土)
ここねっとオープンデー
・パソコンお悩み相談

令和5年 1月21日(土)
第2回利用者連絡会

令和5年 2月18日(土)・19日(日)
市民活動パネル展

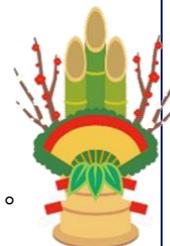
会場: イオンモール佐野新都市

2月25日(土)
さのフォーラム事業 『困ったときは助け合おう!!! 地域の助け合いを話し合おう!!!』講演会・ワークショップ

令和5年 3月11日(土)
ここねっとオープンデー
・パソコンお悩み相談

【年末年始休館のお知らせ】
12月29日(木)～1月3日(火)の間、
ここねっとは休館いたします。

1月4日(水)9:00から開館いたします。
皆様、よいお年をお迎えください。



編集後記



情報紙を編集する度に、写真を見返して「こんな話をしたな」「面白かったな」と思わず作業する手を止めてしまいます。今年一年、登録団体や関係各所の皆さんとお話し共に活動できたことが、大きな財産であり勉強となりました。来年もより多くの皆さんとお会いし、繋がり、顔の見える関係を築きながら、協働の形を探っていきたいと思っております。